

第544回

隅田川七福神めぐり

越谷市郷土研究会の新春恒例行事

企画・資料作成 加藤幸一
大野悦治
関根芳孝

日時 令和8年1月4日(日) 新越谷駅 改札の内側 受付 7:20~7:50 8:03出発

参加費 1,000円(交通費各自負担) ※雨天中止(1年後に延期)

「隅田川七福神めぐり」で古代の隅田川を体験!

隅田川(上流は利根川)は、古代の武蔵国(東京・埼玉)と
下総国(千葉県)の国境に流れた川。

元荒川も古代は隅田川として流れており、大沢や増林などの
左岸は、下総国に入っていた。

古代の下総国側には千葉県香取市の香取神社を本社とする
香取神社が分布している。



元荒川の大沢や増林などの地域の左岸は下総国で、香取神社がここも分布している。

1班 加藤幸一 2班 大野悦治 3班 関根佳孝

コース 歩行距離(5.8キロ)

新越谷駅(8:03)区間急行浅草行(2両目乗車)→堀切駅(8:23)下車

→荒川(荒川放水路)の土手(古代の隅田川と武蔵国・下総国)→下り駅改札となりのWC→

奥州道→①多聞寺(毘沙門天)WC・香取神社→奥州道→隅田千軒宿(奥州道と東海道の交差地)

→梅若公園(木母寺跡・梅若丸伝説)WC→現在の木母寺→WC→水神社(隅田川神社)→東白鬚公園

の南側WC→隅田川の隅田堤(墨堤通り)→②白髭神社(寿老人)→今も残る隅田川の隅田堤→

③向島百花園(福祿寿)→隣の公園WC→隅田堤(墨堤通り)→今も残る隅田川の隅田堤→④長明寺

(弁財天)[この先にWC]→⑤弘福寺(布袋尊)→見番所跡(向島花街界隈)→⑥⑦三囲神社(恵比寿・

大黒天)→業平橋(在^{なり}原^{ひら}業平由来の橋)→スカイツリー駅(旧・業平橋駅・12時解散予定)



「隅田川七福神めぐり」とその周辺の歴史

加藤幸一

1 荒川放水路（荒川）

荒川放水路は、隅田川の氾濫による東京下町の洪水被害を防ぐために作られた人工の巨大な川である。現在はただ単に「荒川」と呼んでいる。

2 荒川のロケ地

荒川の風景とロケ地：荒川の緩やかな土手風景は、たびたび映画やテレビドラマの舞台となる。昭和54(1979)年から放映された武田鉄矢主演の「3年B組金八先生」のロケが行われた場所である。ドラマは荒川近くの中学校が舞台となっており、その足立2中は現在、東京未来大学に変わった。

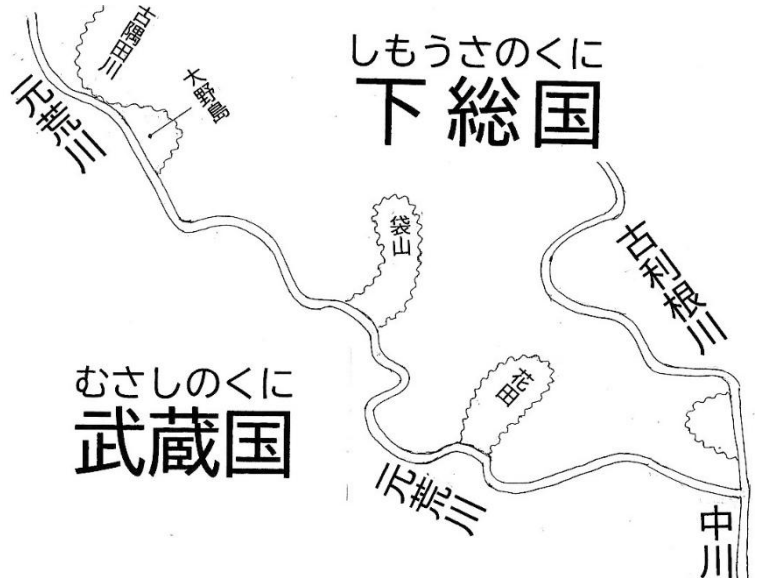


【古隅田川の流路】

春日部の古隅田川と梅若丸伝説

春日部・越谷周辺の古代の隅田川(利根川)

地図編



**春日部の古隅田川→元荒川→吉川
橋下流の中川→江戸の古隅田川
すべて下総と武蔵の国境を流れる古
代の隅田川で、東京の古隅田川に
流れ込んでいた。
隅田川の上流は利根川と呼ぶ。**

【隅田川と梅若丸伝説】

梅若丸は、平安時代に京都の貴族の子として生まれた。十二歳のときに人買いにだまされ、奥州に連れて行かれる途中、東国(関東)のこの地で病に倒れたので隅田川に投げ込まれてしまった。村人に助けられたが、梅若丸は、「尋ね来て 問わば答えよ 都鳥 隅田川原の 露と消えぬと」と辞世の歌を詠んで息絶えた。

※ 都鳥→現在の「ゆりかごめ」

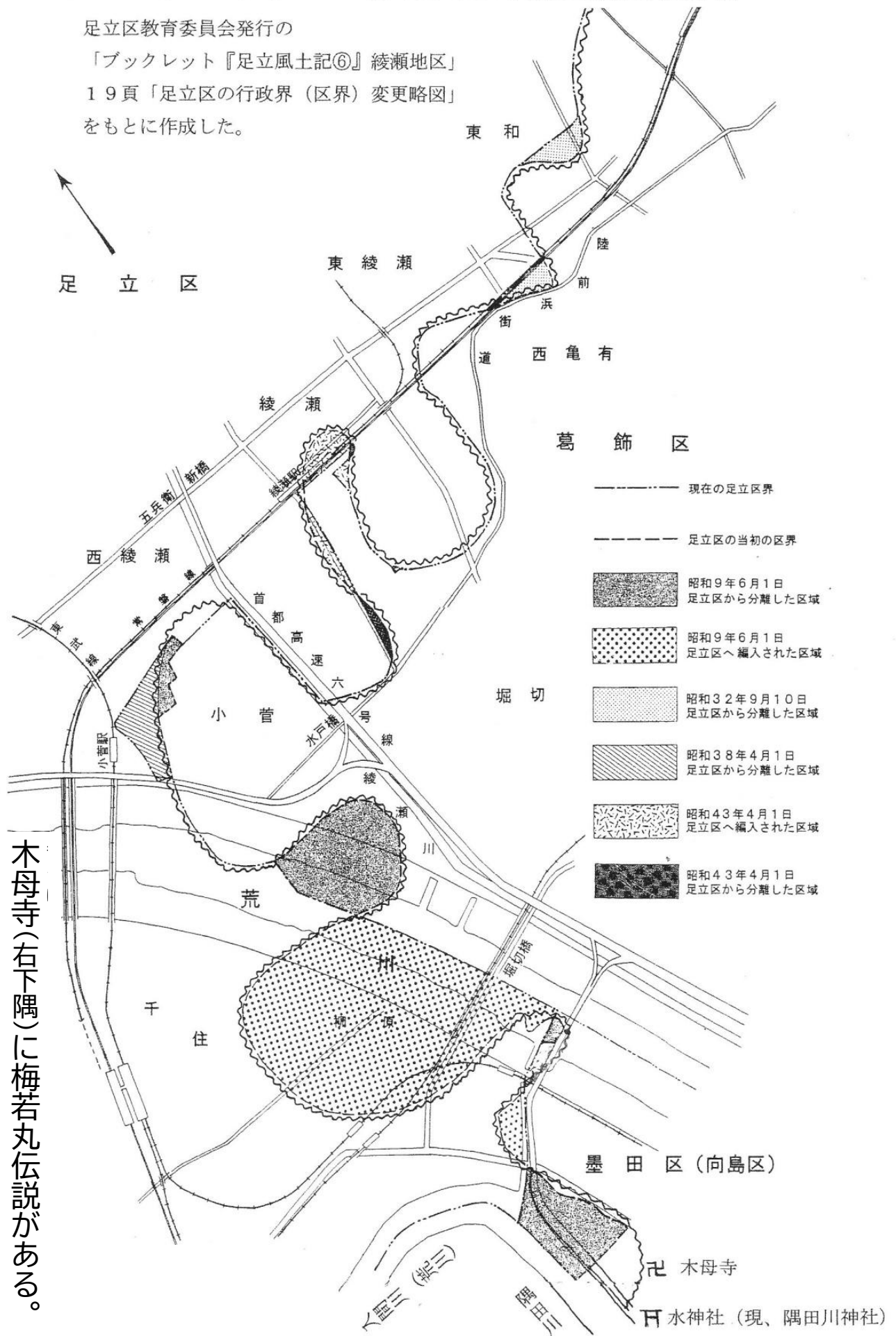
足立区内の古隅田川の推定流路 (葛西領古隅田川)

足立区教育委員会発行の

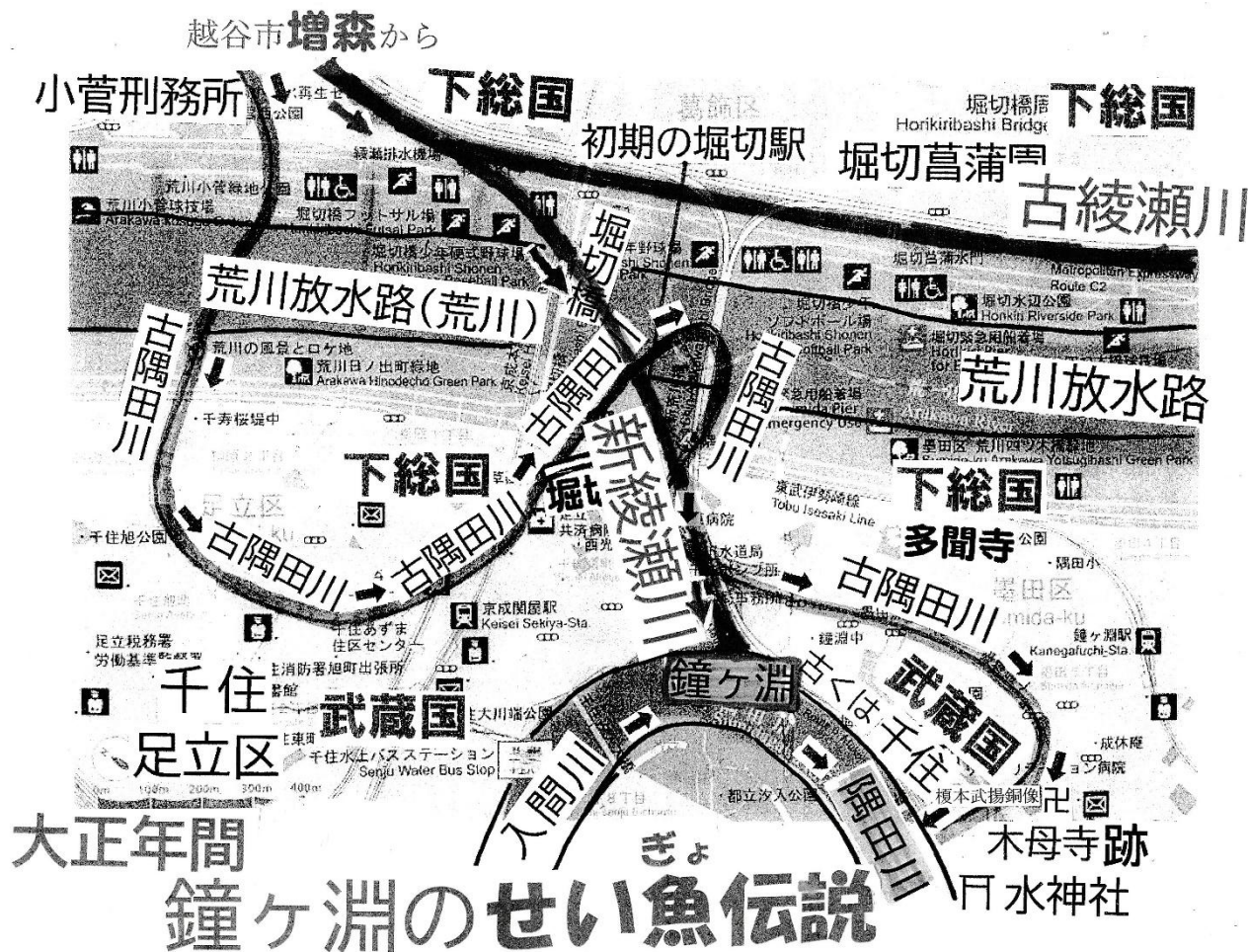
「ブックレット『足立風土記⑥』綾瀬地区」

19頁「足立区の行政界(区界)変更略図」

をもとに作成した。



木母寺(右下隅)に梅若丸伝説がある。
春日部の古隅田川にも同じ伝説がある。



3 鐘ヶ淵と越谷の増森「せい魚(ぎょ)伝説」(戦前・大正～昭和)

増森にかつて古利根川が流れ、その「せいヶ淵」に「せい魚」という巨大な魚が住んでいた。川が土砂の堆積で浅くなり住みにくくなったので、故郷を捨てて、新綾瀬川を通して東京の隅田川にある鐘ヶ淵に移り住むようになった。ところが、このせい魚が鐘ヶ淵を通る船を転覆させ沈めるようになった。そこで鐘ヶ淵の難所を通る船は必ず『増森船(ましもりぶね)だよ』と言うことにした。すると「せい魚」は自分の故郷からきた船だと思い込み、転覆させることはなく、無事に通過することができたという。このように鐘ヶ淵はかつて難所として知られていたのである。

※参考文献 平成29年11月の第49回市民文化祭発表・加藤幸一著「増森のせい魚伝説」

4 古代の奥州道

多門寺の前を通る道が古代の奥州道である。北は、現在荒川放水路があって、その先には行けないが、堀切・亀有・金町・松戸を通して奥州(東北地方)方面に通じる道であった。

① 多聞寺(毘沙門天)

隅田川七福神の内の「毘沙門天(多聞天)」を祀る。寺の名の由来は多聞天ともいう。また、境内には狸塚がみられ、穴に住む化け狸の伝説がある。別名「たぬき寺」とも呼ばれた。悪さをした狸が門前に二匹死んでいるのを和尚と村人が発見したという。

5 香取神社

香取神社は下総国に見られる。香取神社(隅田村の鎮守)があることから、この地はかつて下総国であったことがわかる。

6 隅田千軒宿

すだ せんげんじゆく

隅田はここでは「すだ」と読む。かつては「須田」とも書かれた。

古代の奥州道と東海道が交わる交差点で、ここに隅田千軒宿があった。千軒ほどの宿屋があったという意味である。二つの街道が交わり、栄えた宿場であったのであろう。

7 古代の東海道

すだ
この隅田宿には、奥州道と東海道との交差点であった。

西の武蔵国府こくふ(現在の府中市)と東の下総国府しもうさ(隅田川を渡って現在の市川市国府台[こうのだい])とを結ぶ古代の官道であった。

8 「墨堤通り」と江戸時代の「隅田堤」

ぼくてい

墨堤通りは、江戸時代の隅田川の「隅田堤」すみだづつみの道幅を大きく広げた現代の道路。隅田堤の西側は広大な河川敷が広がり、その先に武蔵と下総の国境を流れる隅田川が流れていた。

9 榎本武揚銅像

たけあき

榎本武揚は、江戸幕府の旗本で、オランダに留学した。帰国後、幕府に仕えたが、大政奉還によって幕府は崩壊。敵の官軍との戦いで、五稜郭の函館戦争を指揮したが降伏する。その後、敵であった新政府に加わり、活躍する。

10 梅若公園

梅若丸伝説で有名な現在の木母寺もくぼじはもとはこの地にあった。その北側には隅田堤沿いにやって来る古隅田川が流れていて、現在の隅田川に流れ注いでいた。

11 東白鬚公園(防災公園)

しらひげ

災害時における避難をする公園である。公園の東側に立ち並ぶ13階建ての高層住宅は、住宅そのものが火を中に入れない防災の働きをし(防災団地)、高層住宅と高層住宅の間には防災シャッターが設置。屋上には散水用放水銃がある。園内には火の粉や熱風から身を守るための樹木(生木)を多く植え、南と北に一つずつある池は、避難者の衣服や荷物についた火の粉を消すための物である。地盤も周辺より高くなるよう作られている。

12 公園内にある木母寺^{もくぼじ}

現在の木母寺は、現在の梅若公園あたりから、この地に移転してきたものである。公園内では木造の建物は許可されないが、周りに防火壁を付けて特別に許可されたものである。

また、梅若丸伝説のある木母寺の「木母」の漢字の由来は、梅若丸の「梅」の字の分解、「木」と「母」（毎）からできているという。

13 纏^{まとい}のシンボルタワー

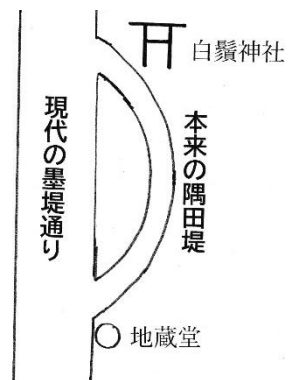
江戸時代において火事といえば、火消しが持つ纏^{まとい}を連想する。纏のモニュメントは火消しのシンボルであり、この東白鬚公園のシンボルでもある

14 水神社（隅田川神社）^{すいじん}

江戸時代は水神社と呼ばれ、水神が亀に乗ってこの地に上陸したとの伝承から、狛犬が亀になっている。水神の森があることも有名で、隅田川をさかのぼる船頭にとっては、鐘ヶ淵の難所が近いことを知らせる目印になった。明治になって隅田川神社と改めた。もとは少し北にあったという。

② 白鬚神社（寿老人）^{しらひげ}

白鬚神社の祭神（猿田彦命^{さるたひこのみこと}）を寿老人にあてている。近くの隅田川に架かる橋が白鬚橋である。



15 隅田川の隅田堤^{すみだづつみ}

白鬚神社から地蔵堂までの広い道幅の直線の墨堤通りは、現代の道路である。一方、白鬚神社から地蔵堂まで、弧を描いた狭い道は江戸時代の土手道で、隅田川の隅田堤である。

8代将軍吉宗は、白鬚神社の北側から言問橋付近までの隅田堤までの間の隅田堤を建設した。隅田堤の北側一帯が隅田川の広大な河川敷であった。

③ 向島百花園（福祿寿）^{ひゃっか}

文化・文政年間の頃、百花園は文人墨客^{ぼっかく}がよく集まり楽しむ所であった。以前からあった谷中七福神の影響を受けて、田園風景が広がり風流が楽しめるこの地に、新たに隅田川七福神めぐりを設置。隅田川七福神の発祥地である。その後、他の地域でも七福神めぐりの新設が見られていく。

「百花園」の由来は、「梅は百花にさきかけて咲く」ということから名づけたという。

16 晩年の榎本武揚^{たけあき}の住まい跡

晩年は向島で悠々自適に暮らし、向島^{むこうじま}を愛した。

向島とは、浅草側から隅田川をへだてて、寺島・牛島などを総称して呼んだもの。

17 王貞治が育った少年野球場

日本で最初の少年野球場で、王少年のホームランは隅田川によく飛び込んだという。

18 隅田川の隅田堤

墨堤通りの公園側が隅田堤の跡

④ 長命寺^{ちやうめいじ}（弁財天）

長命寺の裏の隅田堤に「桜もち」のお店。江戸時代から続く店で「長命寺桜もち」と呼ぶ。

⑤ 弘福寺（布袋尊）

ここに咳止めに効き目があるという「咳の爺媼尊^{じじばば}」の石像がある。咳止めの飴が売られている。

19 見番と向島花街

料亭からの依頼で芸者さんを手配したり、玉代を精算したり、お稽古場を設けたりしているのが見番である。芸者屋の取り締まりをする所。そこに面する道が「見番通り」で、このあたりが向島の料亭街である「向島花街」界隈となる。

見番は、長命寺と三囲神社の中間のこの道路に面した西側に「向嶋墨堤組合」（向島の見番）の建物がある所にあった。

⑥⑦ 三囲神社^{みめぐり}（三囲稻荷とも呼ぶ）⑥ 恵比寿と⑦ 大黒天

三囲神社（三囲稻荷）の別殿には、古くから大国・恵比寿の二神の神像が奉安されている。もとは三井の越後屋（今の三越）にまつられていたものである。江戸時代の終わり頃、隅田川七福神が創始されたとき、当社の二神もその中に組み込まれたのであった。

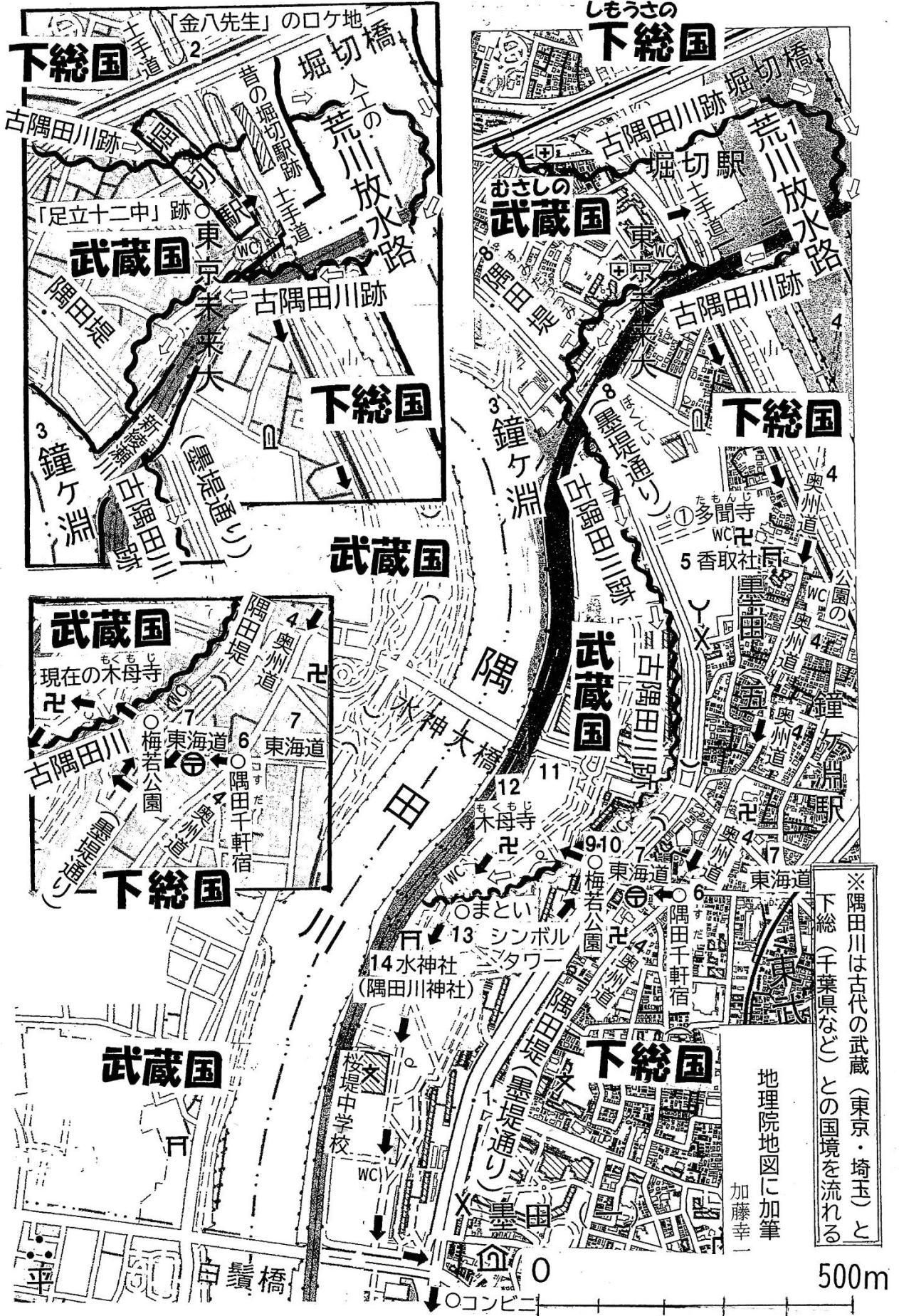
三井の「三」と三囲の「三」との関連で三井家の守護神となる。境内地には、三井家のライオン像と霊廟^{れいびやう}（神道系の鎮魂を祀る施設「顕名霊社」^{あきな}）がある。

※三囲とは、白狐が神像の周りを三度回ったことが由来のようだ。

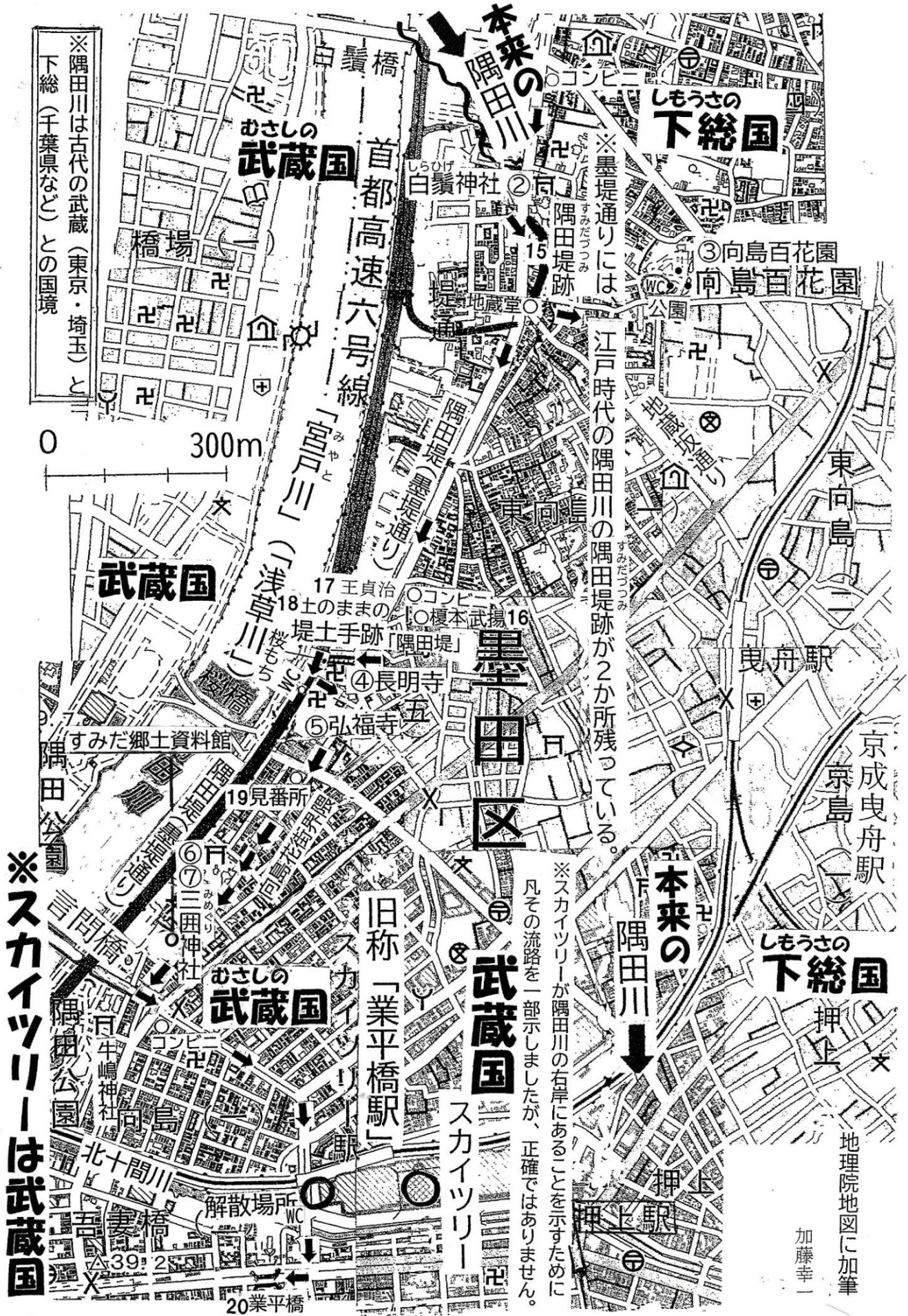
20 業平橋^{なりひら}

業平橋は平安時代の「伊勢物語」で有名な歌人在原業平をさす。京都からこの隅田川にたどり着いて都鳥の歌を歌う。「名にし負はば いざこと問はむ都鳥 わが思ふ人は ありやなしやと」

隅田川七福神のルート地図その1



隅田川七福神のルート地図その2



※スカイツリーの高さは、武蔵国の武蔵にかけて^{ムサシ}634メートル